

連載

つなげて 広がる リスクコミュニケーション くらしとバイオプラザ21監修

Vol5

豊洲／築地市場、どちらの食が安全？



山崎 毅

NPO法人食の安全と安心を科学する会(SFSS) 理事長・獣医学博士

想して下さい、い、などをあげた。筆者が全力でレスを返したこともあり、コメント数は500件を超えて、これぞ「ザ・リスクコミ」という素晴らしいデイスカッションになったように思う。理想のリスクコミュニケーション(以下、「リスクコミ」と略す)は、いろいろな立場の人間が特定のリスクに関して喧々囂々議論を交わすこと(筆者はこれを「リスクコミ・バトルロイヤル」と呼ぶ)であり、外野からそれを観戦している一般市民がリスクの大小を自然に理解できることが最大の利点であろう。

その後の本年3月30日、豊洲市場移転問題の「食の安全と安心」に関する専門家の統一見解を東京都庁記者クラブにて記者発表し、「豊洲／築地市場を衛生管理面から比較すると、安全性が高いのは豊洲市場」など、三十数名の食の専門家たちの統一見解を、関澤純先生・広田鉄磨先生とともに発表したのだが、その際に筆者は、一般消費者の不安を煽らない「やさしい」リスクコミとして、社会心理学的なリスク認知バイアス(リスク誤認)を逆手にとったコミュニケーション手法を試みた。上述の豊洲市場問題でも、地下水のベンゼン汚染が報道された当初の東京都民がイメージしていた豊洲市場と築地市場のリスク比較は、明らかに豊洲が「クロロ危険」となっていたはずだ。特に豊洲市場については、それまでの盛り土がなかったこと、隠蔽問題や地下水モニタリング検査結果の疑惑もあり、リスク管理責任者である東京都が都民の信頼を失っており、築地ブランドが安心・豊洲市場は不安という

感的にリスク比較してしまつたこと、さらにマスコミ報道がその短絡的な「食の安心」比較を拡散したことが原因だろう。その後の本年3月30日、豊洲市場移転問題の「食の安全と安心」に関する専門家の統一見解を東京都庁記者クラブにて記者発表し、「豊洲／築地市場を衛生管理面から比較すると、安全性が高いのは豊洲市場」など、三十数名の食の専門家たちの統一見解を、関澤純先生・広田鉄磨先生とともに発表したのだが、その際に筆者は、一般消費者の不安を煽らない「やさしい」リスクコミとして、社会心理学的なリスク認知バイアス(リスク誤認)を逆手にとったコミュニケーション手法を試みた。上述の豊洲市場問題でも、地下水のベンゼン汚染が報道された当初の東京都民がイメージしていた豊洲市場と築地市場のリスク比較は、明らかに豊洲が「クロロ危険」となっていたはずだ。特に豊洲市場については、それまでの盛り土がなかったこと、隠蔽問題や地下水モニタリング検査結果の疑惑もあり、リスク管理責任者である東京都が都民の信頼を失っており、築地ブランドが安心・豊洲市場は不安という

「食の安心」の対立構造の中で、二者択一なら築地市場を選択する消費者が多い状況だった。しかし東京都庁での記者会見において、山崎自身から「食の安全」に関する豊洲市場／築地市場のリスク比較表を説明させていた(左表を参照のこと)。その際、市場の「食の安全」を定性的にリスク比較するうえで、評価項目に優先順位をつけることが重要であり、とくに「地下水」など市場の外部環境は優先順位が低いことを説いた。要は二者のリスクを

直接的に比較して詳しいリスク評価がされていない部分について、リスク評価をやり直すことで、元々のリスク比較が誤解であったと理解できるような「リスク比較のやり直し」が有効ということだ。今回の豊洲市場問題では、「食の安全」に関する典型的なリスクコミ事例として「やさしいリスクコミ」手法を試すことができた点で大きな収穫があったと自負している。今後また同様の公共政策に関わるリスクコミの機会があれば、積極的に協力していきたい。

築地／豊洲市場の食の安全に関わるリスク評価比較表(都民へのリスク例)

Table with 3 columns: Risk Evaluation Item (Priority), Current Status of Construction Market, and Current Status of Toyosu Market. Rows include water management, temperature control, HACCP, and external environment.

\*: 市場で扱う生鮮食品の安全性への影響度をもとに優先順位を決めた。(食品衛生上の健康リスクが大きいものから優先的に評価すべき) なお本件は定性的リスク評価のため、あくまで山崎による個人的見解である。